

第53回BCP維持管理研究会 議事録

1. 日時: 2015年5月28日(木) 15:30-18:00

2. 場所: 富士通マーケティング 本社

3. 出席者(敬称略)8名

小田、國貞、清水、菅谷、高桑、高橋、幡谷、中谷(書記)

4. 内容

4-1. 机上演習の立案に関する検討

① 誰のための訓練にするのか

⇒ 研究会メンバが訓練ファシリテータを経験し、スキル向上を目的とする。

② 訓練の種類及び方法

⇒ 危機管理演習とし、机上演習(ワークショップ形式)として進める。

③ 訓練範囲

⇒ 各企業共通である初動対応を中心に実施し、想定企業や災害の種類を変えて複数人にファシリテータを経験してもらう。

④ 訓練対象組織

⇒ 全社災害対策本部、及び被災拠点の両グループを対象とする。

⑤ 次回以降の検討項目

⇒ 想定企業検討する。(さまざまな業種を選定)

⇒ 訓練用災害の種類を検討する。(大地震、洪水、大型台風など)

各々の災害に対するインシデントを検討する。

被災シナリオを作成する。

⇒ 役割、スケジュール、実施場所などを検討する。

4-2. ICSの概要と組織体制(例)

① インシデントコマンドシステム入門編(ICS100)の概要説明

・指揮調整(コマンド)

スタッフの補佐を受けて実行部隊の指揮調整を行う。

・情報作戦(プランニング)

情報一元化し収集・分析を行い提言すると共に、戦略的なアクションプランを策定する。

・資源管理(ロジスティクス)

実行チームに必要なリソース(応援要員、設備機材、緊急備品、金銭等)の供給や被災者の支援

・庶務財務(フィナンス)

復旧にかかる費用、及び被災による機会損失の把握等、総合的なコスト管理

・事案処理

復旧作業の担当部門、危機管理マネジャーの指示に従い、目標を達成のアクションプランに基づき戦術的な目標を決めて行動する。

②国内企業の危機対応組織の事例説明

⇒3パターン … 中谷より照会

⇒6パターン … 菅谷氏より照会

事例を確認し、良い点・悪い点について、話し合い自社の組織見直しに役立てる。

5. 次回開催

2015年6月25日(木) 15:30~18:00

場所 : BCAO神田オフィス

<今後の活動予定>

8月 南相馬市訪問 (國貞氏がスケジュール調整)

以上